

これまでの取組（23～28年度）	点検対象及び抽出方法	点検の進め方	点検の視点	評価方法					
	<p>【対象】 市民を対象としたソフト事業</p> <p>【抽出】 全ての事務事業から、法定事務、補助金・負担金・交付金、ハード整備、公の施設の管理費、内部事務、庶務・経理事務を除いた市民ソフト事業を中心に点検</p>	<p>【体制】 委員を2班(5人ずつ)に分けて点検</p> <p>【点検数等】 毎年度 約18事業を実施(5年間平均) (各班 約9事業をそれぞれ3日間かけて)</p> <p>【進め方】 1事業あたり1時間 担当所属の説明(10分)→質疑応答(25分) →委員の協議(20分)→総括(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が行うべき事業か</li> <li>目的は適切か</li> <li>目的(目標)を達成する手段は適切か</li> <li>事業は効率的・効果的に実施されているか</li> </ul>	<p>・評価基準に基づき、「今後の方向性」を決定</p> <p>今後の方向性</p> <table border="1"> <tr><td>維持</td></tr> <tr><td>見直し</td></tr> <tr><td>要改善</td></tr> <tr><td>拡大</td></tr> <tr><td>縮小</td></tr> <tr><td>廃止</td></tr> </table>	維持	見直し	要改善	拡大	縮小
維持									
見直し									
要改善									
拡大									
縮小									
廃止									
<b>総括(5年間の取組の振り返り)</b>									
	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>点検対象を大きく捉え、政策や方向性、テーマで一括りの範囲として見るべき</li> <li>似たような事業を、年度をまたいで点検することはやめるべき</li> <li>説明や協議などは、時間を十分にかけることが必要</li> <li>点検の質を高めるためには、行政職員のレベルアップが必要</li> <li>委員の点検結果について謙虚に受け止め、改善していく土壌が必要</li> <li>事業の投資効果や達成度の見える化が必要</li> </ul>	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業が細かすぎて、取組の全容が分かりにくいのではないか、と思えるものがあった</li> <li>十分な検討を行うには、説明時間や検討時間が短すぎるのではないか、と思えるものがあった</li> <li>担当所属からの説明が委員に十分理解されていないのではないか、と思えるものがあった</li> </ul>							

今後の方向性（29～33年度）	テーマごとに	十分に時間をかけて	円滑で発展的な協議を進め	見える形で改善に繋げる
	点検対象	点検の進め方	点検の視点	評価方法と対応
	<p>いたずらに点検対象を増やすのではなく、ひとつのテーマに含まれる<b>複数の事業</b>について点検する</p>	<p>十分に時間をかけて、説明及び質疑応答ができるよう、<b>1事業にかける時間を増やす</b></p> <p>点検日数は、委員の負担も考慮して縮小(ただし、効率的に進める)</p>	<p>委員と担当所属が行財政改革指針(平成29～33年度)に掲げる「<b>質の高い行政経営</b>」という視点を共有し、現在の取組の改善策を探る</p> <p>※事務局は委員と担当所属それぞれの理解が進むようコーディネートする</p>	<p>具体的な改善策に繋げやすいよう、「〇〇については、△△のため、□□のようにすることを検討してほしい」</p> <p>のように、<b>評価も具体的な提案</b>で行う</p> <p>※改善の提案内容が具体的であれば、取組がなされたか否かも明確となる</p>
<b>最終年度 4年間の総括</b>				